

ニジェール

【国名】ラテン語で「黒い」の意

【国旗】

オレンジ：北部のサハラ砂漠

白：平和，良識，純潔

緑：南西部の沃野と繁栄

中央の円：すべての恵みをもたらす太陽



【民族】

ハウサ族，ザルマ族，トゥアレグ族，プル族，カヌリ族等。かつては，民族や地方ごとに顔に入れ墨があった。最近では減ったものの，顔にある様々な傷により，どの民族なのかが分かれると言われる。

【住居】

奥地に行くとレンガの建物は無くなり，土で造られた簡素な小屋のような建物で生活している。倉庫としても使われる。

【ニジェール川】

- ギニア，マリを経て国土の西端を流れ，ナイジェリア中央部からギニア湾に注ぐアフリカで3番目に長い川（約 4,200 km）で，川幅は 30m～1 km。流域には豊かな農地が広がる。上・中流地方には10世紀頃からガーナ王国，マリ王国，ソンガイ王国等が栄えた。また下流のニジェールデルタでは，17～18世紀にベニン王国が栄えるなど，西アフリカの歴史と深く結びついている。

【チャド湖】

- 国の南東端にあるチャド湖は，砂漠化の影響を大きく受け，1960年から15分の1程度まで縮小。湖面は南北に分かれている。湖畔地域は大昔からサハラ横断交易の拠点の1つで，カネム・ボルヌ帝国が栄えた。南西部の都市ザンデールは，19世紀末まで同帝国の影響下にあった。

【サハラ砂漠】

- ニジェールはサハラ砂漠の南部に位置しており，国土の大部分が砂漠。アイル山塊の東方には，テネレ砂漠のたおやかな砂丘群が横たわり，三大砂丘スポット（北から，テメット，アドラ・シリエ，アラカウ）が見物。付近でラクダを借りてのキャラバンも可能。
- 「緑のサハラ」時代には，水が豊かな地域で，人が住んでいた証拠としてアイル山塊に岩壁画が遺されている。一部はアイル・テネレ自然保護区として，ユネスコ世界遺産（自然遺産）に登録。
- テネレ砂漠至近の町アガデスは，かつてのサハラ交易の中心地で，15世紀半ば以降アイル太守（スルタン）国の首都であった。現在も塩のキャラバン隊や遊牧の民の故郷となっている。賑わう市場や特徴的なモスク，ラクダ市場が名物。アガデス歴史地区として，ユネスコ世界文化遺産に登録。

【サハラ交通の要衝】

- ニジェールはサハラの交通の要衝に当たり、様々な民族の多様な芸術品や工芸品を見ることができる。よく知られているのは、トゥアレグ族の芸術・工芸品で、金細工や入り組んだ装飾のある短剣、クッションやサンダルなどの革製品、ラクダのサドル。

【自然公園】

- W国立公園（ユネスコ世界自然遺産）
西アフリカの特徴的な生態系を残している国立公園であり、ニジェール、ブルキナファソ、ベナンに跨がり、レイヨウ、象、水牛、カバ、ライオン、ヒョウ、ワニ等がいる。2千平方キロの面積を誇り、1996年、世界自然遺産に登録（「W」の由来はニジェール川が蛇行していてちょうど「W」の字に見えるため。）。

●キリン保護地区

ニアメから南東およそ 60 kmにあるクレ付近ではマリからニジェールにかけて数百頭のみ生息し、アフリカに暮らす他の7種のキリンとは異なる稀少種のキリン（ジラフ・カメロパルダリス・ペラルタ）が生息している。1960年代に2～300頭まで激減したが、2005年以降の保護プロジェクトによりその数は増加し、2018年時点で600頭を越えた。天敵がいなかったため、夜は地面に横になって寝る。地元産のビールでは、このキリンを描いたラベルを使用。

【恐竜の化石】

- 北東部で化石が出土したニジェールサウルスは体長が約10m、掃除機の先端のような形の口、無数の小さな歯、太くて長い首、透けそうなほど薄い頭骨といった奇抜な特徴を有する。その他国内で出土した迫力のある恐竜のレプリカをニアメの博物館で見ることができる。

【ウラン】

- 生産量世界第4位（2017年世界シェア5.8%）。北部アガデス州にウラン権益を有する海外ウラン資源開発（OURD）（株）が1970年以来ニジェール政府、フランス企業等と共同出資（出資比率25%）でウラン採掘を行い、日本向けに輸出を行っていたが、東日本大震災以降、エネルギー政策方針転換により日本向け輸出が停滞。

【紫タマネギ】

- 主要輸出農産品。コートジボワールなど周辺国では、現地のタマネギよりも価格が少し割高なもの、大ぶりで赤紫色の味の良い紫タマネギは人気。

【谷垣雄三医師】

- ニアメから東へ 800 km程離れた同国中部マラディ州テッサワ県で、25 年以上に亘り、現地人のための医療活動を精力的に行ってきた。1981 年から JICA 専門家（外科医）としてニアメの国立病院に派遣され、1992 年からテッサワに私財で病院を建設。外科医療と外科医養成を行った。第 16 回読売国際協力賞受賞（2009 年度）。
- 同医師は 2017 年 3 月に死去し、現地の風習に基づき埋葬された。葬儀には州知事、県知事、川村大使（当時）等が出席。同医師の残した病院は、ニジェール政府へ譲渡され、医療活動再開のため準備中。

【伝統相撲】

- サッカーと並び人気のあるスポーツが「相撲」。日本の相撲とルールは異なり，頭，肩，ひじのいずれかが先に土についた方が負けとなる一方，手をついたり，土俵から出たりしても負けにはならず，投げ飛ばされてひじなどが土についても，土俵の外なら勝負に関係がない。まわしがなく，相手のズボン等をつかむのは反則なため，ガッブリ四つのスタイルが魅力。互いに組み合っていていかに相手の足を取るかがポイント。
(了)